

第5回 総務部会 会議報告

日 時:令和7年12月15日(火)
18時00分～19時00分
場 所:川岸小学校 ふれあい教室

○次 第

1. 開会
2. 総称について
3. 校名の公募について
4. 校章・校旗の検討について
5. 閉会

○配布資料

- ・校名募集要項(案)
- ・校名応募用紙
- ・川岸学園構想に基づく義務教育学校グランドデザイン
- ・校名募集(応募フォーム)
- ・校章(校旗)の検討について

○会議の内容

①総称について

- ・「川岸学園構想」の理念を象徴し、地域に浸透している**「川岸学園」を、義務教育学校と認定こども園の共通の「総称」として用いる。
- ・施設ごとに条例で定める必要があり、「岡谷市立〇〇義務教育学校」「岡谷市立〇〇認定こども園」を正式名称とする。
- ・上記の「〇〇」の部分について、地域や子どもたちの意見を反映させるため公募を実施。
- ・校名のスケジュールは1月～2月に公募を実施し、3月に部会で絞り込み、市と教育委員会で名称案を決定し、パブリックコメントを経て、6月頃に正式決定する予定。

②校名の公募について

- ・学校と園の名称を同時に募集できるよう、募集要項を一体化した。
- ・地区住民、園児・児童・生徒およびその保護者、卒業生、地区内勤務者などとする。
- ・応募フォーム(Google フォーム等)、郵送、FAX、持参(川岸支所等に設置する応募箱)とする。

③校章・校旗の検討について

- ・校章は市条例による規定が不要なため、部会や学校現場で決定可能である。
- ・児童生徒や保護者から案を募る、または外部の専門家(デザイン系学校等)に依頼するなどの方法を検討する。
- ・中学生のデザイン力を活用し、授業の一環としてエッセンスを出し合うなどの可能性を模索する。

○会議で出た意見について

① 施設名称の公募について

- ・「川岸学園」が総称であるために公募から除外されると誤解されないよう、「川岸学園」という名称をそのまま応募することも可能であることを伝えるべきではないか。
- ・事務の効率化のため、メール応募は辞めて専用の応募フォームに集約したほうが望ましい。

② 校章のデザインについて

- ・中学生にデザインを依頼する場合、技術科や美術科の授業時間のやりくりが厳しいため、早めに依頼を出す必要がある。
- ・地域の芸術家やデザイナーに協力を仰ぎ、子どもたちのアイデアを形にする「地域と共に作る」プロセスが理想的である。
- ・世界的に有名な地元出身の芸術家(辰野登恵子氏など)のエッセンスを参考にしたり、繋がりを持たせたりすることも検討したらどうか。

③ 校歌について

- ・開校時あるいは最初の卒業式に間に合わせる必要がある。
- ・歌詞に盛り込みたいキーワードを子どもたちからアンケートで募るなど、校名・校章の決定と並行して準備を進めるべきである。

○今後の進め方

- ・令和8年1月13日から約1ヶ月間、校名・園名の公募を実施する。
- ・今回出された校章や校歌に関する意見(地域連携や早期着手など)を事務局で精査し、具体策を検討する。

○次回の予定

- ・名称の公募結果がまとまる時期に合わせ、3月頃に部会を開催し、名称の候補の絞り込みを行う。